

## いきいき健康術 第98回

「なかなか治らない咳  
“咳喘息”に注意！」

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波町病院の小児科医師伊藤育世先生。この時期になる人が多く、放っておくと気管支喘息になることもある咳喘息に関するお話です。

朝晩が冷え込む季節になりました。

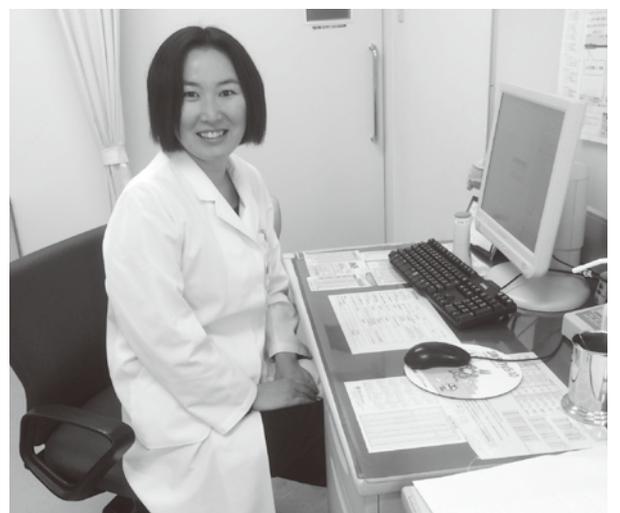
運動会や遠足など行事も多く楽しい季節ですが、この季節になると毎年、咳が長引くことはありませんか。

今回は、最近増えている「咳喘息」についてお話します。

咳喘息は、喘鳴(ぜんめい)や呼吸困難を伴わない長引く咳のことをいいます。気管支喘息(一般的にいわれているいわゆる「喘息」とは異なり、呼吸機能の悪化は認めません。風邪や冷氣運動、喫煙(周囲に喫煙者がいる場合を含む)、雨天、湿度の上昇、花粉や黄砂の飛散などで増悪するといわれており、今の季節は注意が必要です。

咳喘息も気管支喘息と同様に、夜間から早朝にかけて症状が悪化することが多いです。治療には、いわゆる気管支喘息の治療と同様に、気管支拡張薬や抗アレルギー薬、吸入ステロイドなどが有効とされています。

咳喘息の経過中に、成人では三〇〜四〇%、小児では高頻度で呼吸困難を伴う気管支喘息へと移行します。



小児科医師  
伊藤 育世先生(京丹波町病院)

一方で、早期に治療することで気管支喘息への移行を低下させるとの報告もあります。

●息苦しくはないが、毎年決まった時季に咳が長引く

●発熱はないのに、三週間以上咳が続くなどの症状があれば、一度かかりつけの内科・小児科や耳鼻咽喉科の先生に相談してみたいかがでしょうか。

## お知らせ

京丹波町病院では、平成二十七年四月から、新たに毎週木曜日の午後二時から三時まで小児科の予防接種を行っています。

☎86-0220